

きずな(絆) No.29

発行:全日本民医連 震災対策本部

《HP 新着情報》 ★★【現地情報】「民医連の仲間のみなさんへ」今田隆一坂総合病院院長 4/4
 ★★★肥田舜太郎医師(全日本民医連顧問)のお話(動画ニュース) 4/5～
 ★★【緊急声明】「日本政府はこれまでの原発推進政策を改め、東京電力福島原子力発電所の廃炉を明確にするとともに、ただちに全原子炉の調査にはいることをとめます」4/2(臨時理事会)

「生活復興」に向けて～よいそって手をたずさえて

■地域の期待～訪問して実感:長町病院(宮城)地域訪問対策本部



＜川村友の会会長＞地割れや地滑りで倒壊の恐れがある地域を訪問した。玄関前の駐車場が75cm沈下したAさん宅。地震当日は留守だったので家族全員が無事とのこと。たまたま、親戚の家に一時避難のため引越しをしていたところを訪問。無事を確認できてホッとした / ＜医局事務Sさん＞今、地域の方々が不安で一杯な時に、長町病院の職員として声がけすることはとっても大事と思う。援助してほしいこと、不安な事に心を寄せて、力を合わせていく時だと思う / ＜通所リハKさん＞友の会が行っている高齢者への弁当配食サービスを利用している方から「今届けてもらえず残念です！」と、お弁当箱を返してもらった。長町病院に対する期待を、地域の方の声から感じることができた。 / ＜亀田総合病院から参加のTさん＞以前、長町病院で看護師として働いていた。いても立ってもいられずボランティアとして参加。地域の方々の姿を見てこちらが元気をいただいたように思う。出来ることを続けていきたい。

（「つなぐ手ねっと」No4 長町病院・地域訪問対策本部発 4/4）

■すぐに駆けつけ、ふるさとの医療を守る:健友会(東京)

＜山本英司中野共立病院副院長＞震災後、すぐに宮古市田老へ車を走らせました。自宅は震災に伴う火災で全焼、両親は無事でした。親戚が経営するコンビニも流され、その親戚は行方不明のままです。大破した国保田老診療所(有床)所長に協力し、旧町役場に救護センターを開設しました。診療所は5人入院中に被災、看護師らは津波がせまる中、ベッドを押し高台に走って逃げたそうです。今後、医療・地域活動を調整する司令センターが必要です。職場を失った医療従事者を民医連が雇用することも必要ではないでしょうか。（「健友会組織部ニュース」308号 4/4）



■医療・看護の原点～災害の街がおしえてくれたこと:神奈川みなみ医療生協

＜3/31 報告会 看護部長＞被災地で何ができるのか考えていましたが、実際は医療や看護の原点や人間の幸せなど、深く考えさせられ、災害の街でおしえられたように思います。帰路、横須賀インターを降り見慣れた景色がそこにあり、ほっとしたのと同時に、そんな街さえもあつという間に失った人々の悲しみを考え胸が詰まりました。（「東日本大震災対策本部ニュース」No13 4/1 神奈川みなみ医療生協）

＜おしらせ＞*****

○法人・事業所・県連が発行された支援ニュースや新聞報道掲載記事などは、info@min-iren.gr.jp(全日本民医連代表アドレス)に、集中してください。

○全日本民医連HPで関連情報・動画を11本掲載。活用し職場での意思統一、学習会を積極的に開催しよう。
